

# SHIN CLUB 245

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「TREES（鶴の木集合住宅）」 撮影：Satoshi Asakawa

## 厄介なこと

ここは多摩川の河川敷にほど近い、大田区鶴の木。このたび、RC壁と木々に囲まれた外観が特長的な集合住宅が完成しました。周辺はほとんどのマンションがワンルームの地域です。しかし、建築家の伊藤潤一氏は、敷地の斜め向かいに小学校があり、子どもたちの通学路となっている様子を見て、子どもたちに何かを訴えかけるファミリータイプの建築を提案しました。

「オーナーとは家族について語り合いました。家族はファミリーツリー、小枝が広がるように増えていく。集合住宅は余計なものをそぎ落として建てられるの普通ですが、ここでは、一つ厄介なものを引き受けてもらうのはどうでしょう」と持ち掛けました。

「例えばペットは、毎日散歩させて、食べさせてと世話が大変だが、それが人の心の癒しとなっている。それと同じように、この集合住宅に入居される家族には厄介だけでも、1本の木を新たな家族の一員として迎え入れてもらう。つまり、1本の木を育ててもらおうという条件で入居いただくということにしたのです。育てるといふ厄介さを引き受けることで、それ以上の豊かさを手に入れることができる。自然とともに暮らす、木を育てる喜びがついてくる—そういうコンセプトはどうですか」とオーナーに提案されたそうです。

「このプロジェクトに携わることになった頃、フィンランドに行く機会がありました。そこでバルコニーを上手に室内化している

家のあり方に触れることになりました。

ヘルシンキに1週間ほどアパートを借りたのですが、違う空間が豊かさを生み出していると感じました。バルコニーに新たな価値を見出せないかと感じたのです。

そこで、このプロジェクトでは、『木』というアイテムを用いて、生活に厄介なことをバルコニーに設えました。それは、部屋の延長線上として、積極的に利用できる場所としたのです。例えば上階に伸びていく木が入居者の間のコミュニケーションツールにもなる。そんな風にも考えました。1本の木を介して、上下階がつながっている訳です」

外観は矢板の型枠を使っています。木枠の粗々しさをストレートに感じることができます。育っていく木々を受け止める自然な土、石のような対比で、経年劣化をものともしないよう、建物としての将来を見据えています。

「工事が始まってから、『これ何?』と通学する子どもたちの話題になっていたみたいで、行きかう大人たちも『一体何が建つんだろう?』と興味津々のようでした」

建築自身もつめしさと同時に、そこで何か新しい状況が起きることも同じくらい重要であると感じるようになったという伊藤氏は、子どもたちの反応を完成まで楽しんでいたとのこと。

# TREES (鶉の木集合住宅)



矢板を用いたコンクリート打ち放しの外壁

## 木と共に成長する家族の生活

外観の矢板型枠は、時間が経っても木々に負けない力強さと荒々しさが  
必要だと感じたからである。

時間が経っても、古さを感じないこと。言い換えれば、「不易なもの / こと」  
を常に建築では考えている。

建築が時の経過とともに老朽化することは避けられない。ただ、本質的  
な美しさをもつものは、時代が変わっても美しい。それは変化してはい  
けないということではなく、変化することで味わいや深みを帯びていく  
ことでもあると思うし、建築における「不易なもの」とは、こうした意  
味である。

同時に「不易なこと」とは、時間が経っても変化しない人や自然の有り様  
とも言える。人が自然を見たり感じたりして、心が安らいだり豊かさを  
感じたりすることは、時代を超越した人が本質的にもつ性質である。だ  
からこそ、TREES における1本1本の木々もつ意味は、厄介さと引き  
換えにするだけの意味をもつ存在だ。



外壁や樹木がスポット照明で浮かび上がる

室内プランに目を転じると、土間空間をもつ間仕切りの開閉によって使い方を变化させら  
れるプランが特徴である。回遊型、ワンルーム型、メゾネット型など、ファミリーだけで  
なく多様なライフスタイルを受け入れることができ、実際の入居者も、ファミリーだけで  
なく、メディア関係者、外国人、アーティストなど多彩な人々が生活を楽しんでいる。

街に目を向けると、TREES の木々は居住者のものであり、同時に地域の人々のものでも  
ある。子供たちが学校の登下校に TREES の木々の色づきや花々を愛でながら、季節の変  
化を感じてくれること。建物の変化を見守り、語ってくれることは、TREES が地域住民  
や子ども達の友達のような特別な存在として、心の中に残ってくれるものになるだろうと  
期待する。

人々の心を動かせるような建築を作りたい。時代の潮流に流されない「不易なもの / こと」  
を目指す姿勢を持ち続けたいといつも思っている。

(伊藤潤一氏 談)

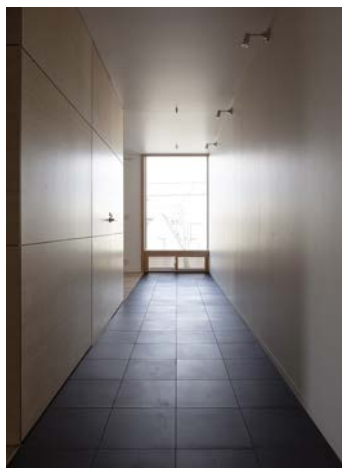


土間空間とフローリングでゾーニング。引き戸でフレキシブルな利用  
が可能なプラン

所在地：大田区  
構造：RC造  
規模：地上3階  
用途：共同住宅（全11戸）  
企画：タカギプランニングオフィス  
設計・監理：伊藤潤一+伊藤潤一建  
築都市設計事務所  
構造設計：多田脩二構造設計事務所  
施工担当：瀧澤、豊田  
竣工：2020年1月  
撮影：Satoshi Asakawa



メゾネットタイプの住戸の吹き抜けに設けられた、  
スタイリッシュな鉄骨階段



土間空間がいろんな利用方法を想起する



夜間は部屋からの明かりが建物と木々を際立たせる

## 「コトをおこす」建築

## 伊藤潤一／伊藤潤一建築都市設計事務所



東小松川デイサービス (2016)  
JDC デザインアワード金賞・審査員賞  
ダブル受賞 ほか

# Jun'ichi Ito



伊藤潤一氏 事務所にて 撮影：アック東京

今月は、「TREES (鶏の木集合住宅)」を設計された伊藤潤一氏にお話を伺います。

一大学院を出られてから、シーザー・ペリの事務所にいらっやったんですね。

伊藤：そうですね。入所して間もなく、日本橋三井タワーの担当としてアメリカ事務所に行きました。設計だけでなくアメリカ事務所と日本事務所のつなぎ役のようなことをやっていました。3か月以上滞在できないので、3か月滞在しては1週間日本に帰ってきて、またすぐに戻るといような感じで、最初はホテル住まいでしたが、途中からアパートを借りて、車で通勤するような状態でした。週末はNYやボストンに行き、建築を見て回りました。国際コンペもいくつかやりましたね。東京駅八重洲口のツインタワーのコンペでは、様々な国の若手が集められて、デザインを進めたのを覚えています。大規模な開発や超高層ビルのデザインに関する方法論をシーザーの元で直接経験できたことはとても貴重でした。

その後、独立して最初は住宅の設計などをやっておりましたが、東京大学の大学院の博士課程に籍を置き、アジアの街の研究をするようになりました。3年間の間にウズベキスタンや中国、インドネシアなど、アジアのいろんな国を巡りながら、歴史的建築物の保存と再生といったテーマでワークショップをやっていました。そのうち仕事がいくつか来て、そのタイミングで東大を後にしました。3年前にやっと博士号を取りました(笑)。

一ここで細かくご紹介できませんが、子どもの施設についての調査や設計もされているんですね。

伊藤：都市や街、建築について子ども達からもらう気づきというものが、とても新鮮で重要だと強く感じています。独立してから

も二子玉川商店街などで、友人のアーティストや写真家と、アートと街遺産のワークショップを企画して、美大の学生と一緒に半年近くの事前調査を経て実施しました。こうした活動がきっかけで児童施設の相談などを受けることが増えていきました。

一児童養護施設に関するお仕事は、どのようなものだったのですか？

伊藤：以前の児童養護施設は「大舎制」という、学生寮的な住環境で養護を行って来ました。しかし、より家庭的な住環境に近い小規模な養護を推進するようになり、以前の建物が更新される必要が出てきたんです。

改修を依頼されて、いままで経験してきたワークショップを取り入れようと考えました。子ども達にとって、施設は家です。その子ども達と一緒につくる必要があると考えたんです。家が自分にとって安らげる場所であることを、プロセスを共有することで、メッセージとして子ども達へ伝えたいという気持ちでした。児童養護施設の設計は、なにかに導かれたような運命的なものを感じましたね。

一子どもに対して、建築や街について考えさせる教育が欧米に比べて日本では不足しているといわれています。

伊藤：たとえばフィンランドなどは、子供のための建築スクールがあったりしますよね。私は北海道の田舎で育ったので、この崖は自力で登れるとか、高台に行く獣道や公園への抜け道とか、街をくまなく探検して遊んでいました。こうした経験が都会の子供たちは少ないでしょうね。最近は自然災害が頻発して、自分の街はどんな地形や構造なのかを、知ることの必要性を改めて感じます。身近な街について知ることが、災害時対応やひいては地球環境について考えることにつながります。

一本日はありがとうございました。

## 伊藤潤一 (いとうじゅんいち)

1971年 北海道生まれ  
1996年 工学院大学卒業  
1999年 東京藝術大学大学院修了  
1999年 Cesar Pelli & Associates Japan 入所  
2002年 伊藤潤一建築都市設計事務所 設立  
2008年 東京大学大学院博士課程 単位取得満期退学  
2017年 博士(工学) 東京大学

### ■受賞歴

2012年 日事連建築賞(コダチノイエ)  
2016年 JCD デザインアワード 2016 金賞(東小松川デイサービス)  
2017年 JIA ゴールデンキューブ賞特別賞(子供の家)



写真上：児童養護施設「子供の家」改修計画  
子供環境学会賞(2011)



写真右上：アメリカ事務所での国際コンペの打合せ風景。伊藤氏(右から3番目)、シーザー・ペリ(中央)  
写真右下：千葉大学で教鞭をとる伊藤氏。フィンランドでの国際ワークショップの様子



## 「TREES（鵜の木集合住宅）」矢板工事と鉄骨工事について

今月ご紹介した「TREES（鵜の木集合住宅）」では、通常、建築の基礎工事で土留めに用いられる矢板をコンクリート打ち放しの壁面をつくる型枠として用いています。建物にハードな印象を持たせる工事が、実際にはどのように行われたかを現場担当者に聞きました。

### ①矢板工事

矢板を建物に使用したのは道路に面した1階から3階までの独立した壁面です。高さ9mになります。まず、建て主様と設計者の先生、そして型枠大工さん

を交えて、近くの弊社施工物件の見学ツアーを行い、いろいろな外壁を見ていただきました。その後、モックアップ（試作品）を作り、設計者の先生、建て主様に確認いただきました。矢板の厚みは30mmで、幅がバラバラの材料を普通型枠に1枚ずつ積み上げるように貼っていきました。大変だったのはむしろ解体するときですね。結構重くて手間がかかりました。

（現場担当 瀧澤）



矢板仕様モックアップ



矢板施工中1：通常の型枠に矢板を貼り付けていく



矢板施工中2：正面に見えるのが矢板の型枠



開放された型枠の戸口から矢板面が見える



脱型後の壁

### ②鉄骨工事

TREESの鉄骨階段の特徴は、厚さ12mmのStの踏面と手摺が逆T字型に点着けされているように見える軽快さです。Stの厚さや溶接方法を確認するために、伊藤氏自らが工房に向かい、職人と直接打ち合わせを実施しました。検討段階では伊藤事務所にて1/10スケールの模型を何度も作り変え、意匠性やバランスなどのデザイン

を確認しました。

制作したのは、鉄骨工事一式を請け負う「丸鐵工房」さん。意匠系金物制作は豊口陽さんが担当しています。

2003年、弊社施工の久我山の賃貸併用住宅「Villa Porta Bella」では建て主様から「自由に作って」と依頼され、門扉や手すり、表札、照明などを全て葡萄をモチーフに作り上げた豊口さん。今は設計の先生のデザインで作ることがほとんどです。「自分のデザインで作る機会もたまにはほしいですね」と話されていました。



丸鐵工房の皆さんと設計の伊藤氏（左）



1/10で繰り返したディサインされた模型



Villa Porta Blellaのオーナー邸の門扉

株式会社 丸鐵工房 (marutetsu kobo)  
本社：〒185-0012 東京都国分寺市  
鉄骨工場：〒355-0076 埼玉県東松山市  
金物工場：〒208-0023 東京都武蔵村山市

弊社施工：kaede、祐天寺ハウス、神宮前の家  
2017、カヌースラロームセンターろ過施設、  
TWビルディングなど多数

### 学び直しの経営塾

#### 「寺子屋カレッジ」『あんパン経営学』講座

講師：吉田健司 (株)ZENホールディングス取締役（監査等委員）  
(株)辰 監査役 (株)ビット89 代表取締役

コロナ禍で経済状況が激変する中「真の経営ノウハウ、マインドが身につく」経営塾をご紹介します。中小企業の経営でお悩みの方々は多いはず。しかし問題解決のスキルを学ぶ機会が少ないのが現状です。

吉田氏は、旭化成経営企画室、淑徳大学で教鞭を取られてきた経験から、効率的な経営教育論理をまとめ、日本の学び舎「寺子屋」の精神性（あん）と米国の「ビジネススクール」の論理（パン）を併せ持った和漢洋才型進化系経営塾を展開中です。

7月30日、「マーケティング論」に参加しました。実践的で豊富な内容を吉田先生は2時間の軽快なトークでどんどん進められます。

さて右の写真にある問題です。東海道線の長いホームの真ん中の自販機で売れるものは何でしょうか。

(A) ミネラルウォーター類、B) コーヒー、紅茶、緑茶類、C) ジュース、果汁類、D) 栄養ドリンク類  
答えを知りたい方は、先生の講座でぜひ学んでみてください。



吉田健司氏。ユニホー東京支店地下ホールにて

### 編集後記

・日本各地で頻発する水害。そしてコロナ感染の勢いは収まる様子を見せません。「厄介なこと」に私たちはしっかりと向き合わなければならないようです。

(株)辰 通信 Vol.245 発行日 2020年8月10日  
編集人：松村典子 発行人：若本健寿  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570  
FAX:03-3486-1450 E-mail：daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp

ZEN HOLDINGS 建築屋 SHIN

「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

